

2025年日本国際博覧会協会 御中

2025 大阪・関西万博のごみ対策に関する緊急提案(その2)

2025年7月23日
大阪ごみ減量推進会議
会長 花田 真理子

2025年大阪・関西万博が開幕して早くも折り返し地点を過ぎました。5月に提案を発表した後も、私たちは会場でのごみ対策について実際に観察を続けてまいりましたが、そこで気づいた改善点について、以下にまとめました。開催期間の後半にこれらの改善が実現できれば、ごみの減量や資源化がもっと進むと同時に、来場者の方が気持ちよくごみのない万博に協力していただけると思います。ぜひ以下の提言について前向きにご検討ください。

I 3Rステーションについて

1. 分別ボックスに具体例を表示してください。

7月17日の時点では、西ゲートを入ってすぐの場所に設置されているステーションでのみ、このボックスにはこんなものを入れればいいと一目でわかるような、絵や文字による表示がごみ箱の上にありました。この点は、前回の提案からの改善であると感謝しております。こうした表示をぜひすべてのステーションにお願いします。なお、特に紙コップを「紙類」に入れればいいのか「燃やすごみ」に入れればいいのかについては、来場者、スタッフともに混乱が見受けられます。表示と共にスタッフへの徹底をお願い致します。

2. 多言語表示をしてください。

現状は日本語と英語だけですが、スペースが十分にあるのですから、中国語、韓国語、フランス語、ポルトガル語などによる表示も加えてください。

3. すべての3Rステーションで、常駐するスタッフへの研修を徹底してください。

現状は、スタッフによって分別指導の内容が異なっている実態が見受けられます。また、熱心にその場でペットボトルのラベルはがしをしているスタッフがいる一方で、どこに捨てたらよいかとの来場者の質問に、スタッフによって異なった回答をする状況も見受けられました。以前に比べるとかなり改善されてきたように思いますが、より一層の研修の徹底をお願い致します。

4. 分別しづらい形での食品の提供を参考するよう、キッチンカーやパビリオンに呼び掛けてください。

たとえばココナツミルクは、ストローを挿したココナツがプラスチックの網状の緩衝材とフィルムで厳重に包装されており、ストローを抜いて「プラスチック」の所に捨てた後は、そのまま一緒に「生ごみ/食品廃棄物」に捨てているようでした。「生ごみ/食品廃棄物」のボックスを見つけてここに捨てればいいと喜んでいる来場者の様子に、分別意識を持っているのにもったいないと感じることが何回かありました。

II リユース食器について(再掲)

1. お店の人に、「これはリユース食器なので、ごみ箱に捨てないで返却してください」とお客様に声かけしてくださいようにアナウンスしてください。

リユース食器を使用しているキッチンカーには、その旨の表示がありますが、いちいちそれを見ないお客様もいるし、お店とリユース食器返却場所が離れていると、ついごみ箱に捨ててしまいがちです。そうならないよう、お店の人が商品を渡すときに一言声かけしてくれるように、主催者側から伝えてください。

2. 3Rステーションとの連動をお願いします。

3Rステーションでリユース食器を捨てられることのないよう、次のような工夫をお願いします。

①「燃やすごみ」の分別ボックスに、「リユース食器は捨てないで!!」のような表示をしてください。

②3Rステーションのスタッフの方に、「リユース食器は専用の回収場所へ返却してください」というアナウンスを定期的にしていただくようお願いしてください。また、明らかにリユース食器とわかるものが捨てられそうになつたら、声かけしていただくようにお願いしてください。